

## 経営健全化方針に基づく取組状況（令和3年度）

### 1. 令和3年度決算の状況

令和3年度は、長引く新型コロナウイルス感染症の影響により、全国的に旅客需要の回復は遅れており、(株)神戸フェリーセンターにおけるフェリー事業においても旅客数はコロナ禍前の水準には戻っていない。一方、前年度と比べると、車両（乗用車・トラック）や総人員が増加したことに伴い、船社からの受託料収入も増加した。また、駐車場事業等付帯事業において、新たなシャーシプールの開設等による増収を図ったほか、人件費の削減を含めた経営改善の取組を一層推進したことにより、当期純利益は約12百万円（前年度から約25百万円の改善）となり、平成29年度以来の黒字転換を果たした。

（フェリー事業）

- 新型コロナウイルス感染症の影響により旅客需要の低迷が続いたものの、神戸～小豆島～高松航路、神戸～大分航路において車両（乗用車・トラック）が増加したほか、全航路において総人員が前年度を上回るなど、一定の回復の傾向が見られた。

（駐車場事業等付帯事業）

- 駐車場事業では、青木北駐車場において、駐車区画を増設したことに伴い契約数が増加したほか、シャーシプールについては、令和3年5月に新たに開設したポートアイランド2期シャーシプールを含め、いずれも満車状態が続いている。また、コイン洗車場はリピーターの増加等により利用が増加した。

（業務体制の適正化・効率化）

- 本社管理部門を2部制から1部制に改組するなど業務体制の適正化・効率化を推進するとともに、管理職手当の見直しや役員報酬の削減を行った。さらに、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による厳しい業績を踏まえ、賞与（夏季・冬季）の削減を実施した。

< 損益計算書から >

項目	金額（千円）		
	令和元年度	令和2年度	令和3年度
経常収益	701,736	684,590	741,211
経常費用	734,518	697,256	729,002
経常損益	▲32,782	▲12,666	12,209
経常外損益	0	0	0
当期純損益	▲33,118	▲13,001	11,874

<貸借対照表から>

項 目	金 額 ( 千円 )		
	令和元年度	令和2年度	令和3年度
資産総額	115,547	94,456	135,336
(うち現預金)	85,512	64,906	74,596
(うち売上債権)	13,026	13,338	14,033
(うち棚卸資産)	0	0	0
負債総額	192,167	184,076	213,082
(うち神戸市からの借入金)	0	0	0
純資産額	▲76,620	▲89,620	▲77,746

## 2. 経営健全化方針に基づく主な取組状況

### (1) 法人自らによる経営健全化のための具体的な対応

#### ア フェリー関連業務

- ・各船社と協力しながら利用客の増加に向け取り組んでいる。
- ・令和4年度は、ジャンボフェリー、宮崎カーフェリーが大型化した新船の就航を予定しており、これに伴い神戸三宮フェリーターミナルも拡張されることから、効率的な運営体制の構築に取り組んでいく。

#### イ 駐車場事業等付帯事業

- ・駐車場、コイン洗車場利用者の確保やシャープールの契約台数の維持に努めている。
- ・令和3年度は、駐車場区画の増設や新たなシャープールの開設・運営により増収を図った。

#### ウ 業務の効率化等

- ・早期の債務超過の解消に向けて、出先事務所の閉鎖（本社への一元化）等による物件費の削減や管理職手当、役員報酬、賞与等の人件費の削減に取り組んでいる。
- ・令和4年7月には、早期に経営改善を進め、安定的な経営基盤を構築するため、「経営改善計画」を策定。今後、本計画に基づき、2年を目処に債務超過の解消を図っていく。

### (2) 神戸市による財政的なリスクへの対処のための対応

- ・令和3年8月に市が策定した「外郭団体の抜本的な見直し方針」に基づき、(株)神戸フェリーセンターに対し、フェリー事業を安定的に実施できる経営基盤を構築すべく、中・長期的なミッションとして「抜本的な経営改善による経営健全化」、短期的なミッションとして「経営改善計画の早期策定・実施」、「フェリーターミナルの効率的な運営体制の構築」を提示。また、それらのミッションを達成するためのロードマップとなる「経営改革プラン」の策定を求めた（令和4年3月策定）。今後、これらのミッションの達成に必要な指導・支援を行うとともに、経営改革プランの進捗状況について、評価・検証を行っていく。